

11月11日～12月12日
電池月間



でんち

社団法人 電池工業会

BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5-8
機械振興会館内

電話 (03) 3434-0261 (代)

E-mail: bajapan@hi-ho.ne.jp

ホームページ <http://www.baj.or.jp/>

振替口座 東京8-91022

発行人 木村侃丘

定価1部郵送による年決め2,400円

平成16年4月1日

BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

平成16年3月臨時理事会を開催

3月16日機械振興会館において、社団法人電池工業会臨時理事会が開催された。

理事会では、田中千秋会長が議長となり、次の議題が審議された。

第1号議案 会員代表者と理事交替の件

木村侃丘専務理事からFDKエナジー株式会社 鈴木惟司氏から永田 旭氏への交替届が提出されたことが報告され、前記会員代表者の変更に伴い、鈴木惟司氏の後任理事として永田 旭氏の選任が提案され、承認された。

第2号議案 小形二次電池再資源化推進センターの独立

法人化とそれに伴う特別補正予算及び特別会計閉鎖の件
第3号議案の有限責任中間法人JBRCへの基金拠出及び電池工業会の新JBRCへの入会と林謙佐郎氏をJBRCの専務理事に推薦の件

小形二次電池再資源化推進センターの佐々木副所長と元小形二次電池部会長の林謙佐郎氏から独立法人に移行する経緯と、特別会計閉鎖の説明と有限責任中間法人JBRCへの基金拠出及び電池工業会の新JBRCへの入会に関する説明があり、第2号議案、第3号議案が可決承認された。また、林謙佐郎氏をJBRCの専務理事に推薦され、原案どおり承認された。



第30回 小形二次電池部会開催

平成16年3月3日、機械振興会館において中谷部会長を議長に、第30回小形二次電池部会が開催された。

冒頭に、中谷部会長から挨拶があり、続いて木村専務理事から挨拶があった。事務局報告、そして各委員会委員長から平成15年度活動報告と平成16年度活動計画案の説明とその審議が行われた。

1. 中谷部会長挨拶

電池の主要材料であるニッケル、コバルトが高騰している。リチウムイオン電池では、コバルト依存体質から脱皮する必要がある。

2. 木村専務理事挨拶

1) コバルトは需給バランスが大巾に崩れた状況でない中の高騰を考えると、投機が絡まっていると見ざるを得ない。

- 沈静化を図っていくべきであり、同時にコパルトレス商品開発のスピードアップが必要である。
- 2) 中国の模倣品が知的財産権を含め問題となっている。さらに模倣品パック電池で人身被害に至る状況がでており、関係機関とも連携し、対応策の決定が急務である。
3. 各委員会活動報告と次年度活動計画の審議
- 1) 業務委員会
- ・2003年の年間販売実績3,971億円(前年比106%)と海外生産分の出荷実績(個数で前年比165%)が報告された。
 - ・主要機器業界の動向に基づき、2006年までの需要予測の紹介があった。リチウムイオン電池については、用途別需要の詳細が報告された。
- 2) 技術委員会
- ・ニカド・ニッケル水素電池とリチウムイオン電池の分科会活動や共通する統合規格関係の進捗について報告された。
 - ・2004年度の計画では、SBA規格の見直しが多くなる。
- 3) 海外環境委員会
- ・2004年3月発行の「世界の電池規制の状況」が紹介され、発行することについて了承された。
 - ・EU草案の動きについて予想されるスケジュールの紹介があった。当面は内容、スケジュールとも不確かな状況である。
- 4) PL委員会
- ・2003年度の結果と2004年度の計画について説明があった。消費者安全の啓発とともに、公的機関との交流強化を重点に取組む。
- 5) 国連対応委員会
- 国連勧告の改定に関する安全性理論の取組みや海上輸送における国内法の修正交渉、ならびに航空局との試作品承認システムの導入交渉の進捗状況が報告された。
- 6) 広報委員会
- 「でんちフェスタ」「プロ野球バッテリー賞」など2003年度の活動報告と2004年度活動計画の説明があった。
- 7) 再資源化委員会
- マンガン系リチウムイオン電池に関する課題として、再資源化率の定義を検討したこと、およびニカド電池における回収率向上への取組み状況が報告された。
- 8) 再資源化推進センター
- ・拠点整備の状況と回収実績について報告された。
 - ・独立法人の設立にかかわる検討項目が紹介された。
- 以上の審議事項はすべて了承された。
4. その他
- 1) 中国 模倣品パック電池情報
- ・中国市場を中心とした模倣リチウムイオンパック電池の流通による品質事故の問題提起があった。
 - ・機器メーカーのインターネットによる注意情報の紹介があった。

最新版JIS規格発行のお知らせ

平成16年3月20日に(財)日本規格協会から発行されたJIS規格の改訂点は以下の通りです。

No	名 称	主 な 改 正 点
JIS C 8511:2004	アルカリ一次電池	1) 汎用乾電池(LR20, LR14, LR6, LR03など)の応用試験に関する規定の改正した。 2) 空気亜鉛電池の高負荷補聴器用応用試験規定を追加した。 3) 電池形式を追加、削除した。 4) 新たにJIS C 8514「水溶液系一次電池の安全性」を引用規格とした。
JIS C 8708:2004	密閉形ニッケル・水素蓄電池	1998年に発行されたIEC61436 (Sealed nickel-metal hydride rechargeable single cells)を基に翻訳し、その体系に沿った形の規格とした。
JIS D 5302:2004	二輪自動車用鉛蓄電池	1) 二輪自動車用鉛蓄電池は制御弁式が主流となり、新たな形式が大幅に増加したため、生産実績に合わせて形式を追加、削除した。 2) 新たに軽負荷寿命試験方法を参考で追加した。
JIS D 5303-1:2004	電気車用鉛蓄電池 —第1部:一般要件及び試験方法	1) 試験方法や試験前の電池状態、表示等を見直しIEC規格との整合化を更に進めた。
JIS D 5303-2:2004	—第2部:種類及び表示	2) IEC規格に規定された欧州、アジア及び北米の蓄電池種類についてもこのJISで規定し、IEC規格との整合化を更に進めた。

平成16年度蓄電池設備整備資格講習

近年、産業経済の高度の発展や社会生活環境の複雑化に伴い、消防用設備等に非常電源としての蓄電池設備は非常に重要なものとして位置付けられています。蓄電池設備は火災その他の災害等で常用電源の供給が停止した場合は確実に機能しなければなりません。そのためには常日頃の適正な維持管理が不可欠です。消防用設備等に用いる蓄電池設備を維持管理するためには、専門的な知識と技能を必要と致しますが、当工業会が実施する「蓄電池設備整備資格者」講習を受講し資格者となられた方はこの必要とする能力を満たすものあります。

一方、消防用設備以外に用いる非常電源について規定されている火災予防条例が平成3年9月30日消防予第198号により改正されました。この改正により従来「熟練者」に行わせるべき事としていました蓄電池設備の点検及び整備を「必要な知識及び技能を有する者」として蓄電池

設備整備資格者が指定され、各市町村では公報等により、この旨が告示されました。この告示により蓄電池設備整備資格者の位置付けが確かなものとなり、その役割は一層重要なものとなりました

当工業会では蓄電池設備に関する専門的な知識・技能を修得し、蓄電池設備整備資格者の資格を取得するための講習会を行っております。平成16年度は以下の要領で開催しますので主旨をご理解の上、一人でも多くの方が受講され、資格を取得されることを願いたします。

また、資格取得後5年毎に受講していただく再講習については、詳細をご本人宛に(社)電池工業会から直接、文書でご連絡を致します。なお、平成16年度に該当の方で住所変更の届出をしていない方は至急(社)電池工業会の講習担当事務局までご連絡ください。

蓄電池設備資格者再講習実施予定表

開催地	講習月日	講習会場	申込み期限 (4月1日～)
沖縄県	6月18日(金)	自治会館 沖縄県那覇市旭町116-30	5月18日
岩手県	6月25日(金)	(財)岩手県防災保守協会会議室 盛岡市本宮小幡19-12	5月25日
東京都①	7月2日(金)	第2電波ビル 千代田区外神田2-14-10	6月2日
愛知県	7月14日(水)	名古屋国際会議場 名古屋市熱田区熱田西町1-1	6月14日
茨城県	7月29日(木)	水戸市民会館 水戸市中央1-4-1	6月29日
大阪府①	9月13日(月)	大阪府農林会館 大阪市中央区馬場町3-35	8月13日
大阪府②	10月1日(金)	大阪府農林会館 大阪市中央区馬場町3-35	9月1日
北海道	10月7日(木)	北海道建設会館 札幌市中央区北4条西3丁目	9月7日
福井県	10月15日(金)	福井県職員会館 福井市松本3-16-10	9月15日
宮城県	10月25日(月)	宮城県管工事会館 仙台市青葉区本町3-5-22	9月27日
広島県	11月5日(金)	広島県情報プラザ 広島市中区千田町3-7-47	10月5日
愛媛県	11月12日(金)	リジェール松山 松山市南堀端2-3	10月12日
東京都②	11月15日(月)	第2電波ビル 千代田区外神田2-14-10	10月15日
福岡県	12月17日(金)	福岡市民防災センター 福岡市早良区百道浜1-3-3	11月17日
神奈川県	12月22日(水)	神奈川県電気工事会館 横浜市中区三吉町4-1	11月22日

●受講料 6,825円(本体 6,500円、消費税 325円)

注1 受講票の返送は申込み期限日以降の発送となります。

注2 受講申請手続き後、欠席等の連絡は(社)電池工業会までお願いいたします。(社)電池工業会の電話:03-3434-0261

蓄電池設備整備資格者講習実施予定表

(平成16年度)

開催地	講習月日	講習会場	申請書提出先	申請期限 (申請方法)
北海道	7月6日(火) 7日(水) (100名)	北海道建設会館 札幌市中央区北4条西3丁目 TEL 011-261-6218	(社)北海道消防設備協会 〒060-0005 札幌市中央区北5条西6-2 札幌センタービル内 TEL 011-205-5951	6月 1日～ 6月14日 (郵便又は持参)
岩手県	8月9日(月) 10日(火) (100名)	岩手県自治会館 盛岡市山王町4-1 TEL 019-622-6171	(財)岩手県防災保安協会 〒020-0866 盛岡市本宮小幡19-12 TEL 019-631-1625	7月 1日～ 7月20日 (郵便又は持参)
愛知県	8月30日(月) 31日(火) (200名)	愛知県産業貿易館 西館 名古屋市中区丸の内2-4-7 TEL 052-231-6351	(財)愛知県消防設備安全協会 〒461-0011 名古屋市中区白壁1-50 愛知県白壁庁舎3階 TEL 052-962-0707	7月 5日～ 7月13日 (郵便又は持参)
高知県	9月7日(火) 8日(水) (70名)	高知城ホール 高知市丸の内2丁目1-10 TEL 088-822-2035	高知県消防設備保守協会 〒780-0850 高知市丸の内2-5-14 田本ビル3階 TEL 088-820-7330	8月 2日～ 8月20日 (郵便又は持参)
広島県	9月15日(水) 16日(木) (140名)	広島県情報プラザ 広島市中区千田町3-7-47 TEL 082-240-7700	(財)広島県消防設備管理協会 〒730-0041 広島市中区小町8-21 TEL 082-243-2002	8月 2日～ 8月20日 (郵便又は持参)
大阪府	9月29日(水) 30日(木) (200名)	大阪府農林会館 大阪市中央区馬場町3-35 TEL 06-6941-0821	(財)大阪府消防設備協会 〒540-0032 大阪市中央区天満橋京町2-13 松村ビル TEL 06-6943-7654	8月23日～ 9月 3日 (郵便又は持参)
神奈川県	12月1日(水) 2日(木) (230名)	神奈川県電気工事会館 横浜市中区三吉町4-1 TEL 045-251-4671	(財)神奈川県消防設備安全協会 〒231-0023 横浜市中区山下町1番 シルクセンター2階 TEL 045-201-1908	10月 1日～ 11月26日 (郵便又は持参)
東京都	12月9日(木) 10日(金) (250名)	日本教育会館一ツ橋ホール 千代田区一ツ橋2-6-2	(社)電池工業会 〒105-0011 港区芝公園3-5-8 機械振興会館 TEL 03-3434-0261	11月 1日～ 11月 5日 (郵便又は持参)
福岡県	1月13日(木) 14日(金) (200名)	福岡市民防災センター 福岡市早良区百道浜1-3-3 TEL 092-847-5990	(財)福岡県消防設備安全協会 〒810-0073 福岡市中央区舞鶴3-1-10 セレス赤坂門ビル TEL 092-722-1265	11月22日～ 12月17日 (郵便又は持参)

(注) 定員になり次第締め切りますので、申請期間内早めに申請してください。

受講料金 ¥25,515円(本体24,300円、消費税1,215円)

他に免状交付手数料¥2,100円(本体2,000円、消費税100円)

郵送料金 1部120円、2部140円、3～4部200円、5部240円、6～7部270円、8部以上390円

受験資格 次のいずれかの資格を有する方

- ① 消防設備点検資格者の免状の交付を受けている者
- ② 消防設備士の免状交付を受けている者 甲種消防設備士(第1類～第4類)【乙種消防設備士(第1類～第4類)】
- ③ 建築士の免状交付を受けている者
- ④ 電気主任技術者の免状交付を受けている者
- ⑤ 電気工事士の免状交付を受けている者
- ⑥ 蓄電池設備に関して3年以上の実務経験を有する者
- ⑦ 蓄電池設備に関し、上記①～⑥に定める者と同等若しくは同等以上の技能を有する者であることを講習実施委員会において認められた者

業界動向

《電池・燃料電池・太陽電池》

***松下電器産業** 次世代筒型乾電池として、同社現行アルカリ乾電池に比べ、1.5倍の性能アップ、デジタルカメラでは約2倍長持ち「オキシライド乾電池」を開発。(1月29日付 日経、電波、日経産業、日刊工業、日本工業と化学工業日報)

***三洋電機** 正極にマンガン酸リチウムとコバルト酸リチウムのハイブリッド材料使用の角型リチウムイオン電池の生産を大幅拡大(2月4日付 電波)

***リチウムイオン電池** 昨年2月に三洋電機がジーエス・メルコテックを傘下に、今年に入って東芝も同事業の整理に乗り出すことを決定。価格低迷で撤退相次ぐ。(2月10日付 化学工業日報)

***神鋼環境&中国電力** 固体高分子型燃料電池と水電解水素発生装置を組合せた、国内初の1kW級家庭用ハイブリッド燃料電池コジェネシステムの共同実証試験を開始。(2月12日付 日経産業&化学工業)

***NECトーキン** 中国に二番目の生産子会社が、6月を目処に本格的な操業を開始する。ここではリチウムイオン電池を当面月産百万個生産、2004年度下半期には3倍に引き上げる予定。(2月18日付 電波)

***松下電器産業** 同社従来品に比べ容量を14%増加させた単三形のニッケル水素をユアサと共同開発、4月1日から発売する。(2月19日付 電波、日経産業&日刊工業)

***松下電器産業** 単三形ニッケル水素電池4本付の急速充電器を4月1日から発売する。(2月19日付 電波)

***新日本石油** プリンストン大(米)と共同研究で、有機色素材を使った太陽電池の発電効率を1.5倍に高める事に成功した。なお有機色素材は原料コストがシリコンの数十分の一で済むため、実用化すれば大幅な低価格化に繋がる可能性がある。(2月19日付 日経産業)

***YUASA&日本電池** 今年4月に予定している経営統合後中期経営計画を纏めた。3年後の目標は営業利益130億円。(2月20日付 日経産業)

***三洋電機&ソニー** リチウムイオン電池の納入価格を今春から引き上げる。両社は世界で6千万個強を供給していて、電機メーカーの製品価格にも影響を与えそう。(2月24日付 日経)

***東芝電池** 重負荷機器向けの性能を大幅に向上させた単三形の高性能アルカリ乾電池を開発、3月1日から発売する。(2月26日付 電波、日経産業&化学工業日報)

《商品・技術・材料》

***ヤマハ発動機** 電動補助自転車にリチウムイオンバッテリーを搭載、バッテリー容量32%増、重量を25%軽量化。(2月3日付 日経)

***トヨタ自動車** 昨秋発売以来、米国を中心に販売好調のため、ハイブリッドカー「プリウス」を月産6,300台から11,000台に増産。(2月4日 日刊工業)

***東洋システム** 「ニッポンのキラ星企業」として紹介される。シェア6割の二次電池充放電評価装置メーカー(2月5日付 日経産業)

***森田化学** 年内に月40トン規模のリチウムイオン電池用電解質六フッ化リン酸リチウム製造を目的とした住友商事との合弁会社を中国に設立。(2月6日 日刊工業)

***新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)** 燃料電池・水素技術開発の次期プロジェクトにおいて評価技術・計測技術の開発、材料物性などのメカニズム研究、水素製造の新規触媒探索などを取り上げる方針(2月6日付 化学工業日報)

***ニプロン** ニッケル水素電池を用いた無停電電源装置(UPS)付電源を発売。コンバータ回路を小型化、UPSと電源一体化でパソコン内臓を実現。(2月6日付 日刊工業)

***知財高裁** 全国の特許侵害訴訟のほか研究者への報償を巡る「職務発明」裁判などを一手に扱う初の専門裁判所が、東京高裁の関連組織として、来春発足。(2月11日付 日経)

***新神戸電機** リチウムイオン電池を搭載した乗用ゴルフカートを開発した。初年度150台の国内販売を目指す。(2月19日付 日経産業)

***アーバンオフィス(福岡)** 太陽電池を使った携帯電話向け充電器を3月から発売する。20分で70%以上の充電が可能。(2月26日付 日経産業)

***三井金属** 4月以降の電解二酸化マンガンの値上げ(15%以上)を表明した。(2月25日付 日経&日経産業)

***携帯電話会社(欧州)** 今年後半までに本格的に第三世代事業を展開する計画を相次いで表明した、日本メーカーに商機。(2月27日付 日経)

《調査・統計》

***三洋電機** 2004年度、デジカメと携帯電話で攻勢。デジカメ1.7倍、2,000万台に増産、携帯電話は中国強化し1,000万台に増産。(2月2日付 電波)

***電子情報技術産業協会(JEITA)** 2003年の国内携帯電話(自動車電話を含む)出荷台数が前年比27.4%増の5,078万台と5,000万台を初めて突破。(2月13日付 日経)

***矢野経済** 国内自動車リサイクル部品の2003年度市場規模は推定1,060億円、2001年度に比べ11%拡大(2月13日付 日刊工業)

***新華社** 中国の携帯電話市場では、国産ブランドシェアが拡大、昨年は56%になった。(2月23日付 電波)

***新華社** 中国の携帯電話の輸出が9,523万台となり、世界最大の輸出国になった。(2月24日付 電波)

***情報産業省(中国)** 中国での携帯電話生産が昨年、1億6千万台を超え生産シェアが世界の3割に達した。(2月24日付 日経)

***IDCジャパン** 国内パソコン出荷実績が昨年比2.8%増の1,281万台になり3年ぶりにプラスになった。(2月26日付 日経)

《環境》

***グリーン購入ネットワーク** 企業や自治体対象に実態調査、「組織的にグリーン購入」は83%、環境配慮型製品の販売額比率は50%。(2月4日 日経産業)

***JFE環境** 廃蛍光灯のリサイクル事業を拡大中。なお国内で発生する廃蛍光灯は重量で6万トン、リサイクル率は10%強。(2月16日付 日経産業)

***経済産業省** EUのWEEE・RoHS指令などの電気・電子産業における化学物質管理の枠組みが世界的に変化しつつあることに対応、電気・電子産業の環境・リサイクル戦略を推進する。(2月19日付 化学工業日報)

***有害物質規制** 有害化学物質を規制する多国間条約が相次ぎ発効する。PCB等の輸出入を規制するロッテルダム条約が24日に発行。ダイオキシン等残留性有機汚染物質の製造等に網をかけるストックホルム条約が5月17日に効力が出る。(2月25日付 日経)

***経済産業省** 環境省と連携、家電リサイクル法の一般消費者向けの普及・啓発キャンペーンを来月から展開する。(2月27日付 電波)

《その他》

***日本経済団体連合会** 関心が高まっているCSR(企業の社会的責任)推進の基本的な考え方を明らかにした。その中でCSRの規格化と法制化には反対する姿勢を明らかにした。(2月23日付 化学工業日報)

平成16年3月度の電池工業会活動概要

部会	3月度開催日	委員会・会議	主な審議、決定事項
特別 会議	16日(火)	臨時理事会	理事交替、JBRSの独立法人化とそれに伴う特別補正予算の承認
	19日(金)	広報委員会	2004年度の活動内容、予算とスケジュールの確定
二 次 電 池 部 会	2日(火)	自動車鉛分科会	JIS D 5301(始動用鉛蓄電池)改正案。他の委員会からの依頼事項
	3日(水)	PL委員会	今年度活動結果及び来年度活動計画まとめ
	3日(水)	産業用電池リサイクル委員会	産業用電池新リサイクルスキームの審議
	4日(木)	(自)リサイクル特別委員会	自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	5日(金)	(自)リサイクル特別委員会	自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	5日(金)	用語分科会	SBA「規格票作成指針」制定案の最終確認
	10日(水)	EV鉛分科会	JARI規格(EV用制御弁式鉛電池の試験方法)改正案
	10日(水)	(自)リサイクル特別委員会	自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	11日(木)	(自)リサイクル特別委員会	自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	11日(木)	据置アルカリ分科会	昨年度作成JIS(シール形アルカリ)に対する経産省標準課指摘事項回答
	12日(金)	(自)需要予測小委員会	2月度実績確認
	12日(金)	HEV用電池分科会	技術動向調査報告、15年度の活動報告、今後の取り組み
	15日(月)	EV用電池委員会	JARI規格(EV用制御弁式鉛電池の試験方法)改正案
	17日(水)	臨時PL委員会	液漏れクレーム対応
	17日(水)	据置鉛分科会	今年度改正案作成JIS(C 8704-1ベント形)の解説
	17日(水)	産業用電池リサイクル委員会	産業用電池新リサイクルスキームの審議
	18日(木)	(自)リサイクル特別委員会	自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	18日(木)	資材小委員会	今年度活動結果及び来年度活動計画まとめ
	19日(金)	(自)技術サービス小委員会	「自動車用バッテリーの総合診断マニュアル」(案)の最終確認
	22日(月)	(自)市販小委員会	リサイクル協力店名簿の見直し
	22日(月)	産業用電池小委員会	産業用電池新リサイクルスキームの審議
	23日(火)	小形鉛分科会	今年度改正案作成SBA指針(G 0206)の解説
小 形 二 次 電 池 部 会	23日(火)	(自)リサイクル特別委員会	自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	24日(水)	(自)リサイクル特別委員会	自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	26日(金)	二次電池部会	来年度事業計画審議
	29日(月)	(自)リサイクル特別委員会	自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	30日(火)	(自)リサイクル特別委員会	自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	3日(水)	小形二次電池部会	各委員会の活動内容報告、設備償却期間、JBRC法人化の審議
	17日(水)	ニカド・ニッケル水素分科会	JIS原案(C 8705改正、小形二次電池の機械的試験制定)作成審議
	18日(木)	リチウム2次分科会	JIS原案(C 8711改正、小形二次電池の安全性制定)作成審議
	18日(木)	臨時PL委員会	中国電池の模倣品に対する調査と対応に関する検討
	19日(金)	IEEE対応WG	IEEE/P1625規格の和訳版審議
一 次 電 池 部 会	19日(金)	新種電池研究会	今年度活動内容のまとめ、今後の運営方針について審議
	22日(月)	国連対応委員会	2007年UNプログラムに対する日米提案書の検討
	23日(金)	工場環境委員会	新たな環境基準についての課題検討開始。次年度活動計画の検討
	24日(火)	再資源化委員会リチウムイオン分科会	今年度活動のまとめ及び次年度活動計画のまとめ
	25日(木)	業務委員会	2月度販売状況の検討及2004年の生産予測まとめ
	26日(金)	再資源化委員会	新EU電池指令案についての課題検討及び今後の取組について検討
	3日(水)	臨時環境対応委員会	EPBAのEU電池指令に対する修正案を検討・審議
	3日(水)	一次電池技術委員会	H15年度活動報告とH16年度活動計画審議、酸化銀WG活動について
	10日(水)	一次電池PL委員会(臨時)	乾電池のリユース対応方策とスケジュールの再確認
	12日(金)	JIS小委員会	JIS C 8500「一次電池通則」改正審議
一 次 電 池 部 会	12日(金)	IEC小委員会	IEC60086-1規格のメンテナンス、Z系電池の審議
	16日(火)	一次電池課題検討連絡会	各委員長よりH15年度の実績とH16年度の検討課題を報告
	20日(土)	日本化学会	電池の正しい使い方と捨て方等の啓蒙推進
	31日(水)	酸化銀電池WG	今後の具体的検討項目の審議・スケジュール化

単3形 高性能アルカリ乾電池

新「アルカリ1」新発売 ～「用途別ラインアップ戦略」を推進～

東芝電池株式会社（東京都品川区、社長 鈴鹿 芳朗）は、重負荷機器における性能を向上させた単3形高性能 アルカリ乾電池新「アルカリ1」を開発し、3月1日から発売します。

平成15年度の筒形乾電池の需要は、国内再販市場で約19.8億個、その内アルカリ乾電池は約15.1億個と75%以上を占めると予測されます（当社予測）

このようなニーズに応え、新製品は、正負極活物質及び正極導電助剤として、大電流用途に合わせて最適化した新開発材料を採用することで、中負荷・軽負荷機器における高性能を維持しつつ、重負荷機器における性能を大幅に向上。全領域の機器においてトップレベルの高性能を発揮します。

特に、急速に需要を拡大しているデジタルカメラの撮影枚数で当社従来品比約20%^{※1}アップを実現いたしました。

当社は、2001年12月、業界に先駆け正極にオキシ水酸化ニッケルを採用したニッケル乾電池「GigaEnergy」を発表、2002年3月より発表を開始しました。本年2月には、性能を向上させたニッケル乾電池新「GigaEnergy」の発売を開始し、好評を得ています。今回のアルカリ乾電池の性能アップにより、当社は、一般汎用機器には幅広い用途で高い性能を発揮するアルカリ乾電池「アルカリ1」、特に高機能型デジタルカメラをはじめとする高出力大電流機器にはニッケル乾電池「GigaEnergy」という、製品毎の特性を追求したユーザーに解りやすい「用途別ラインアップ戦略」を推進していきます。

※1 デジタルカメラで実装試験による当社現行品との撮影枚数比較（環境温度：25℃、撮影間隔：30秒、液晶画面：常時ON、ストロボ：毎回発光）アルカリ乾電池は、幅広い用途で高い性能を発揮する電池として認知されておりますが、デジタルカメラでは撮影枚数や使用時間の点でご満足いただけない場合もあり、今回発売する新製品で撮影枚数を約20%向上させました。

— 特 長 —

1. 重負荷機器

- 消費電力 ベース約1900mW、最大約4000mW相当のデジタルカメラで、撮影枚数が約23%アップ。
アルカリ1従来品比で約64枚撮影可能が約79枚撮影可能に
（環境温度：25℃、撮影間隔：30秒、液晶画面：常時ON、ストロボ毎回発光）

2. 中・軽負荷機器

- 消費電力約200mW相当の携帯ゲーム機アルカリ1
従来品比約19時間使用可能が約19.5時間使用可能を維持
- 消費電力約50mW相当の携帯用MDプレーヤーでアルカリ1
従来品比約53.2時間使用可能が約53.6時間使用可能を維持



1月度電池および器具販売実績(機械統計)

(平成16年1月)

単位:数量=千個、金額=百万円(本年1月よりマンガン乾電池の単一、単三の項目がなくなりました)

	単 月				1月～当月累計			
	数 量	金 額	数 量 前 年 比	金 額 前 年 比	数 量	金 額	数 量 前 年 比	金 額 前 年 比
電池・器具総合計	423,515	51,873	97%	96%	423,515	51,873	97%	96%
全電池合計	422,440	50,472	97%	96%	422,440	50,472	97%	96%
一次電池計	305,199	9,430	99%	93%	305,199	9,430	99%	93%
マンガン乾電池計	65,689	1,146	98%	88%	65,689	1,146	98%	88%
単一	*	*	*	*	*	*	*	*
単三	*	*	*	*	*	*	*	*
その他	29,843	435	105%	96%	29,843	435	105%	96%
アルカリ乾電池計	74,121	3,726	83%	86%	74,121	3,726	83%	86%
単三	43,209	1,816	76%	78%	43,209	1,816	76%	78%
単四	17,281	723	97%	93%	17,281	723	97%	93%
その他	13,631	1,187	94%	97%	13,631	1,187	94%	97%
酸化銀電池	74,867	806	108%	103%	74,867	806	108%	103%
リチウム電池	85,449	3,574	111%	101%	85,449	3,574	111%	101%
その他の乾電池	5,073	178	106%	88%	5,073	178	106%	88%
二次電池計	117,241	41,042	92%	96%	117,241	41,042	92%	96%
鉛電池計	3,164	10,697	95%	93%	3,164	10,697	95%	93%
自動車用	2,016	6,070	99%	91%	2,016	6,070	99%	91%
二輪用	335	674	86%	89%	335	674	86%	89%
小形シール	595	689	88%	85%	595	689	88%	85%
その他	218	3,264	98%	98%	218	3,264	98%	98%
アルカリ電池計	53,834	8,257	78%	95%	53,834	8,257	78%	95%
完全密閉式	29,123	3,194	80%	74%	29,123	3,194	80%	74%
ニッケル水素	24,693	4,737	75%	115%	24,693	4,737	75%	115%
その他のアルカリ電池	18	326	55%	114%	18	326	55%	114%
リチウムイオン電池	60,243	22,088	109%	99%	60,243	22,088	109%	99%
器具計	1,075	1,401	128%	105%	1,075	1,401	128%	105%
携帯電灯	521	399	123%	90%	521	399	123%	90%
電池器具	554	1,002	132%	113%	554	1,002	132%	113%

1月度電池輸出入実績(財務省貿易統計)

(平成16年1月)

単位:数量=千個、金額=百万円(少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります)

	単 月				1月～当月累計			
	数 量	金 額	数 量 前 年 比	金 額 前 年 比	数 量	金 額	数 量 前 年 比	金 額 前 年 比
全電池合計(輸 出)	240,391	23,969	103%	99%	240,391	23,969	103%	99%
一次電池計	133,649	2,537	101%	93%	133,649	2,537	101%	93%
マンガン	35,770	321	89%	92%	35,770	321	89%	92%
アルカリ	18,873	349	125%	110%	18,873	349	125%	110%
酸化銀	31,470	353	107%	90%	31,470	353	107%	90%
リチウム	45,224	1,468	98%	91%	45,224	1,468	98%	91%
空気亜鉛	1,838	30	122%	122%	1,838	30	122%	122%
その他の一次	473	16	140%	46%	473	16	140%	46%
二次電池計	106,743	21,432	106%	99%	106,743	21,432	106%	99%
鉛蓄電池	209	347	76%	60%	209	347	76%	60%
ニカド	23,984	1,908	87%	75%	23,984	1,908	87%	75%
ニッケル鉄	0	0	-	-	0	0	-	-
ニッケル水素	12,304	1,374	53%	54%	12,304	1,374	53%	54%
リチウムイオン	52,949	15,082	137%	108%	52,949	15,082	137%	108%
その他の二次	17,296	2,720	164%	140%	17,296	2,720	164%	140%
全電池合計(輸 入)	66,158	5,559	101%	122%	66,158	5,559	101%	122%
一次電池計	59,568	1,581	97%	110%	59,568	1,581	97%	110%
マンガン	13,321	162	90%	81%	13,321	162	90%	81%
アルカリ	38,875	664	90%	84%	38,875	664	90%	84%
酸化銀	178	4	164%	246%	178	4	164%	246%
リチウム	1,745	209	165%	214%	1,745	209	165%	214%
空気亜鉛	1,430	34	218%	160%	1,430	34	218%	160%
その他の一次	4,019	508	284%	158%	4,019	508	284%	158%
二次電池計	6,590	3,978	152%	128%	6,590	3,978	152%	128%
鉛蓄電池	703	1,526	134%	94%	703	1,526	134%	94%
ニカド	3,141	622	125%	164%	3,141	622	125%	164%
ニッケル鉄	18	37	-	-	18	37	-	-
その他の二次	2,728	1,794	209%	159%	2,728	1,794	209%	159%